

令和4年度

第2回神奈川県公立高等学校設置者会議

会 議 録

- 1 日 時 令和4年9月5日(月)
15時10分～15時50分

- 2 場 所 神奈川県庁本庁舎大会議場(オンライン併用会議)

- 3 出席委員 黒岩 祐治、工藤 誠一、田沼 光明、大澤 一仁
竹内 博之、飯島 奈津子、高木 まさき
橋本 和也、花田 忠雄、田代 文彦、濱田 啓太郎
石川 隆一(横浜市教育委員会学校教育企画部長)
大島 直樹(川崎市教育委員会学校教育部長)

福祉子どもみらい局長（座長）

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。定刻となりましたので、令和4年度第2回神奈川県公立高等学校設置者会議を開会いたします。

私は神奈川県福祉子どもみらい局長の橋本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今回の第2回の設置者会議でございますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、このようにオンライン併用での開催とさせていただきます。様々な御協力、ありがとうございます。

なお第1回の会議は書面会議でしたので、オンライン併用ではございますが、皆様にお集まりいただくのは今年度初めてとなります。

開会に当たりまして、「神奈川県公立高等学校設置者会議の設置及び運営に関する要綱」に基づいて、座長の互選をお願いしたいと思います。

従来から神奈川県において私立学校を所管する局長が座長を務めさせていただいておりますので、慣例に従い、大変僭越ではございますが、今回も、福祉子どもみらい局長である私が務めさせていただくということで、よろしいでしょうか。

全員

（同意）

座長

ありがとうございます。

それでは座長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、この会議は原則公開とされておりまして、取材及び傍聴者につきましては、こちらの会議室にすでに入室していただいております。御承知おきください。

議事に入ります前に、今年度、委員の交代がありましたので、新委員の御紹介をいたします。

神奈川県教育委員会教育長 花田忠雄委員でございます。

なお、本日は、横浜市教育委員会教育長 鯉淵委員の代理として、横浜市教育委員会事務局学校教育企画部長 石川隆一様に、また、川崎市教育委員会教育長 小田嶋委員の代理として、川崎市教育委員会事務局学校教育部長 大島直樹様に御出席をいただいております。

また、横須賀市教育委員会教育長 新倉委員は御欠席でございます。

会議に入ります前に本会議の主宰者である黒岩知事でございますが、別の公務によりまして、途中からの出席とさせていただきますので御了承願います。

また、神奈川定時制通信制高校教育を考える懇談会様から、本会議の主宰者あてに要請文書が提出されています。

皆様には文書の写しを送付していますので、御確認をお願いいたします。

それでは議事に入りますが、知事の出席の都合上、次第の順番を入れ替えまして、まず、2の報告事項から始めさせていただき、その次に、1の議題の順に進めさせていただきたいと思います。

なお終了は、15時45分頃を予定しています。

それでは、2の報告事項「公私協調事業 神奈川の高校展 2022」について、事務局から説明をお願いします。

事務局（私学振興課長）

<資料4により説明>

座長

ありがとうございます。この「神奈川の高校展」ですが、今事務局から説明ありましたとおり、始まって17年目ということで、まさに中学生の高校選びのための大きな事業として定着してきていることを実感しております。

昨年度、一昨年度は、残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響で、こうしたイベントが中止となったところでごさいます。今年度についても「全公立展」は中止となりましたけれども、「全私学展」及びこのメインイベントである「公私合同説明・相談会」については、感染拡大防止対策を講じながら、実施をすることができました。16,000人以上の方であるとか、17,000組以上の方が参加できたということは、本当に学校関係者の皆様の御協力と御尽力によるものであると感じております。改めて感謝申し上げたいと思います。あわせて、学校をよく知るということで、中学生とその保護者の皆さんが、このイベントにすごく期待をされているのだなということ、今の報告を聞いて改めて考えたところでごさいます。

せっかくですので、この「神奈川の高校展」につきまして、ぜひ学校現場において、御留意いただいた点ですとか、工夫した点というところがございましたら、御発言をお願いしたいと思います。

最初に、恐縮ですが県教育委員会の方から何か御意見ございましたら、お願いできればと思います。よろしく願いいたします。

田代委員

それでは私からお話をさせていただきます。

先ほどお話がありましたが、「全公立展」は残念ながら中止となりましたけ

れども、メインイベントである「公私合同説明・相談会」につきましては、事前予約制という形をとりまして、各地域の状況に応じた入場時間帯の設定ですとか、入場時に混み合わないよう、予約されていることを確認しやすい工夫等を行いまして、3年ぶりに対面による開催ができました。

県内12会場合わせた予約枠の人数は、およそ36,600人で行っていただきましたけれども、ほとんどの会場が設定された予約枠に達しておりまして、多くの中学校3年生やその保護者に御来場いただいたことから、こうしたコロナ禍の状況がございしますが、対面によるイベントに対する期待の高さがうかがえるというふうに受けとめているところでございます。

なお、この「公私合同説明・相談会」に御参加いただけなかった方々にも、各高校の資料を閲覧していただけるよう、公立高校にも私立高校にも御協力をいただきまして、資料をホームページに掲載をしているところでございます。

新型コロナウイルス感染症の収束が見えないという中ではございますが、中学生に向けた広報、周知につきましては、今後も創意工夫に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。

座長

ありがとうございました。それでは、今度は私学の先生でどなたか御発言をいただける方いらっしゃいますでしょうか。

では、工藤先生お願いいたします。

工藤委員

中高協会理事長の工藤でございます。

私学の場合は、「全私学（中高）展」と資料に載っていますが、実際には、今回は、中学校募集校は入れずに、高校募集校のみで行いました。結果的に約17,000人の来場者があり、その関心の高さに驚いたところでもあります。

また、その折に学費補助についてのブースも設けまして、説明をさせていただき、やはりこれに関する関心も非常に高く、公私間の学費の差が小さくなったことが私立に対する大きな支持の要因になっているということ、改めて私どもは実感した次第であります。

これからはさらに、中学生の皆さんも、或いは御家庭にも、こうした神奈川県学費補助が教育無償化と関連して充実してきている。そういった県の姿勢があるということ、より鮮明に訴えていく必要があるということを実感いたしました。

また、「公私合同説明・相談会」ですが、こうしたイベントにつきましては17回目になります。もともとは、定員協議の件で、私学が県を相手取って行政

訴訟を起こしたことが原点であります。

そのときに、当時の知事の仲介により、こうした協調事業が始まったわけがあります。17年という歳月が経ってしまうと、その原点が忘れ去られてしまう可能性があります。ましてや今回のように、コロナの関係でなかなかコミュニケーションが取れない可能性があり、実際には1月、2月ぐらいにどのような形で「公私合同説明・相談会」を行うかということ公私が話し合っ、それからスタートするわけですが、ここ数年はなかなかそれもできないという状態です。今年も同じでありました。そうしたことから、なかなか公私の間で連絡が行き届かない部分もあったように聞いております。

次年度以降の公私協調事業におきましては、そういった点に関しまして、協調事業が始まったきっかけ、そして、それがどのような形で継続していくかということ改めて、公私がともに再認識しながら、丁寧な手順で進めていっていただきたいということ、協会理事長として、この場を借りてお願いしたいと思っております。

本年は久しぶりにこうした公私の協調事業ができました。大変うれしく思っております。私学協会といたしましても、これからも神奈川県の子どものための教育のために、公立私立がともに手を携えて歩んでいく。これが肝要である。そのように私は認識しております。以上でございます。

座長

工藤先生ありがとうございました。

まず学費補助のお話があったかと思えます。当局が所管をしておりまして、御案内のとおり、この令和4年度に多子世帯の方の充実も図らせていただいたところですが、今先生のお話にもありましたとおり、公私ともに携わって周知に努めていかなければいけないと、今改めて思ったところでございます。

また、その協調事業の連絡の行き届かなかった点、丁寧な手順というそういった御指摘もいただきました。改めて、事務局に今年度の振り返り等をしていただいて、これまでも丁寧な対応に努めてきたところだとは思いますが、改めて原点に戻って、先生の御指摘のような点を踏まえて、よりよい協調事業を今後とも行っていければというふうに今感じた次第でございます。ありがとうございます。

それでは、続きまして、横浜市教育委員会様いかがでしょうか。

横浜市 石川学校教育企画部長

よろしく申し上げます。横浜市でございます。

先ほどからお話がありまして、**「全公立展」**は中止になってしまいま

したが、「公私合同説明・相談会」が、横浜市立高校が参加する3会場で、入場者数に制限を設けはしましたが、開催されました。

中学校3年生、それから保護者の皆様方には、高校を知っていただく大切な機会が対面で実施できたことにつきましては、大変有意義なことだと思っているとごさいます。

横浜市立学校の様子でごさいますけれども、各高校では、それぞれに感染防止対策に万全を期した上で、人数制限、入れ替え制など密を減らしながらも、少しでも多くの方が参加できるように工夫しながら、集合対面での説明会を実施しました。

中学校の方でごさいますけれども、昨年度、学校見学や説明会につきましては、コロナ禍で、オンラインの開催、動画配信等が実施されたり、ホームページでの情報発信等の活用が進んだりしたことで、生徒、保護者が積極的に情報を自ら取りに行き、主体的な進路選択決定に繋がっているという声や感想も寄せられているところではごさいます。今年度は、対面式での説明会が増えていることで、充実した進路選択に繋がることを期待したいと思っております。

また、高校ガイドブックの配布につきましても、昨年度同様、進路選択の助けになる、活用しているといった声をいただいているところでごさいます。横浜市からは以上でごさいます。

座長

ありがとうございました。それでは川崎市教育委員会様いかがでしょうか。

川崎市 大島学校教育部長

川崎市です。よろしくお願いたします。

川崎市教育委員会といたしましては、「全公立展」が新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度に引き続いて中止になったことを受けまして、各中学校長には高校ガイドブック、各校のホームページやパンフレット等の資料を最大限活用し、生徒及び保護者の不安等を払拭するとともに、丁寧な進路指導及び学習指導を行っていただくようお願いしているところでごさいます。

「公私合同説明・相談会」につきましては、3年ぶりの開催ということと、8月の初旬という、いわゆる第7波のピークと重なる時期ということで、大変緊張感を伴う中での開催となったわけでごさいます。生徒及び保護者にはできるだけ安心して参加していただけるよう、市立の各高等学校の校長には、十分な感染対策や、熱中症対策を行うようお願いしてきたところでごさいます。結果としては、体調を崩したり、大事に至るというような参加者もなく、無事終了することができました。

また、川崎市の中学校校長会の役員に確認しましたところ、やはり昨年度に引き続きまして、説明会に参加する機会等が減った分、各高等学校のホームページが重要な情報元になっているということでございましたので、各市立高等学校の校長には、ホームページ等の更新には、例年以上に細心の注意を払って情報発信を行うようお願いしているところでございます。

特に、各高等学校のスクールポリシーにつきましては、必ずホームページに掲載していただくようお願いするとともに、教育委員会といたしましても、掲載状況や内容について確認をしているところでございます。

以上でございます。

座長

ありがとうございました。ただいま皆様から、このコロナ禍の中で、様々な工夫であったり、御苦勞いただいた点につきまして御報告をいただきまして、改めて本当に、今大変な業務が更にオンされているということを実感したところでございます。つきましても、中学生の皆さんが自分の希望に合った学校が見つけられるために、やはりこの事業は大変有意義なものと考えております。本日いただきました御意見につきましては、神奈川の高校展実行委員会にお伝えをさせていただきます。

報告事項については、以上でございます。

続きまして、次第の「1 議題 令和 5 年度の高等学校生徒入学定員計画の策定について」に移らせていただきます。

はじめに、神奈川県私立高等学校協議会における定員協議の結果について、協議会の座長である私学振興課長より報告をお願いいたします。

事務局（私学振興課長）

<資料 3 により説明>

座長

それでは、意見交換に移ります。知事もこの議題の冒頭から本席に入っております。

令和 5 年度の入学定員計画の策定について、ただいま協議会の報告をいただいたところですが、御意見等がございましたら、御発言をお願いいたします。

それでは、今度は私立学校の先生の方からどなたか御発言いただけますでしょうか。

竹内先生よろしく願いいたします。

竹内委員

私学の方は、公立と私立の定員計画策定の申合せの中で、私学は建学の精神に基づく特色ある教育を展開し、学則に定められた収容定員を踏まえた、安定的な学校運営に努め、県民のニーズに応えるという私学の役割が示されています。

この学則に定められた収容定員という部分を私学は毎回重くとらえて、中学卒業生が来年増えますけれども、増える時も減る時も、私学の定員が大きくなるようなことが重要であるというふうに考えております。

今回は公立さんとのバランスを考えて、既に発表がありましたとおり、私学の定員目標は、今年度よりも300名増やした15,000人をお願いしたいということでございます。以上です。

座長

ありがとうございました。それでは続いてどなたかお願いしたいのですが、県教育委員会の方でお願いできますでしょうか。

花田委員

県教育委員会の花田でございます。今回、公私協の結果報告をいただく中で、公私それぞれが実現を目指す定員目標を設定する方式が継続されたこと、また、昨年度に続いて、公立中学校の卒業予定者数の増加が見込まれる中で、県全体の全日制進学実績の向上を目指すこと、こうしたことが合意されたことについて、私としても異存はございません。

コロナ禍の中で受験を迎える可能性も大きいわけでありますけれども、中学生が安心して受験に臨めるように、公私ともに配慮していくことも確認されておりますので、こうした結果を尊重したいと考えております。この間の公私協の皆さんの合意に至る協議に対して、お礼を申し上げます。以上でございます。

座長

ありがとうございました。続きまして、横浜市様いかがでしょうか。

横浜市 石川学校教育企画部長

今年度の入学定員計画につきましては、十分な協議がなされた数字であると思います。妥当であると私どもも考えております。今後とも、横浜市立高校につきましても、各学校の特色を生かした教育を充実させていくように最大限努力してまいりたいと思います。以上でございます。

座長

ありがとうございました。それでは、続きまして川崎市様いかがでしょうか。

川崎市 大島学校教育部長

よろしくお願いたします。川崎市の公立中学校卒業生数は、毎年増減を繰り返しながらも、ほぼ横ばいの状態でありまして、市内の高等学校の募集定員策定に関しましては、市立、県立、私立、それぞれのバランスを考えて検討していく必要があると考えているところでございます。

一方、県内の公立中学校卒業生数は、今年度は870名の増加が見込まれておりますが、来年度以降長期的に見れば減少し続ける見込みです。

また、広域通信制への進学率も増加してきている状況で、目標設定が難しいところでございますが、公私各々が自らの責任において、全日制進学率の向上を目指し、定員目標を設定してきたということで、今回の目標設定は適正であると考えております。以上でございます。

座長

ありがとうございました。本会議には学識の先生にも入っていただいております。飯島委員、ただいまの意見交換を踏まえて、御発言ありましたらお願いいたします。

飯島委員

私は、もちろん公立でも私立でもない立場からですが、両者の方々がよく検討されて協議された数字だというふうにおっしゃっているのを聞いて安心いたしました。

また、このコロナ禍は思っているよりも長く続いている中で、生徒さんたちの気持ち、マインドが下がらないように、ぜひ教育現場で皆さんに、進学したい生徒さんたちの背中を押して、いつでも受け入れる体制があるというふうに示してあげていただき、続けていただきたいなと思っております。ありがとうございました。

座長

飯島委員ありがとうございました。続きまして、高木委員、いかがでしょうか。

高木委員

ありがとうございます。

この協議は、最初に工藤先生や竹内先生からもお話がありましたが、過去の経緯も踏まえて、それから公私の役割ということも十分踏まえた上での協議ということで、今年増加が見込まれる生徒さんのことも踏まえて、慎重に協議されたということで、先ほどのお話の中でも確認されたと思います。

やはり、そこで非常に安定して、これからも続けていけるなということで安心をいたしました。個々の生徒さん、先ほどのコロナ禍でのお話もございましたけども、家庭的にもかなり苦しい思いをされている方たちも多いと思いますので、ぜひとも今後とも、公私が協調をした上で、子どもさんの希望が叶うように、協調して取り組んでいただければと思います。どうもありがとうございました。

座長

高木委員、ありがとうございました。ただいま委員の皆様より様々なお立場から御発言いただきまして、公立サイドとしましては、異存なし、尊重したいという御意見。それから、私学の竹内先生の方からも、様々な努力をする中で、300人の増を今年度受入れるというようなお話で、皆さん異存のないような形で協議がまとまっているのかなというふうに感じております。

なお、本日御欠席であります横須賀市の新倉委員からも、この協議会の協議結果について、異存がない旨の御連絡をあらかじめいただいております。

こうした御意見を踏まえまして、令和5年度の高等学校生徒入学定員計画の策定につきましては、本会議として協議が成立したということでよろしいでしょうか。

全員

(異議なし)

座長

ありがとうございます。

なお、定員計画のうち、公立高校の定員につきましては、今後、教育委員会に諮って正式に決定することとなりますので御承知おきをお願いいたします。

以上で議事を終了させていただきますが、知事から御発言いただけますでしょうか。どうぞよろしく願いいたします。

黒岩知事

大変御苦勞様でございました。所用によりまして途中からの出席になりましたけども、本日お忙しい中、神奈川県公立高等学校設置者会議に御参加いただきまして、誠にありがとうございます。

そしてこのコロナ禍、第7波、若干患者数は減ってきてはいますけれども、まだまだたくさんの方が出ている中で、2学期が始まって、この学校現場では大変な御苦勞をされていること、心から敬意を表したいと思うところであります。

その中で、この設置者会議によって、来年度の入学者定員を公立私立しっかりと合意ができたことは、本当に素晴らしいことだと思っているところです。

こういったことができるのも、お互いの信頼関係があつてからこそだと思います。

来年度は、今年より900人、公立中学校卒業者が増えるという見込みのようでありまして、公立私立でそれぞれ立場はあると思いますが、あくまで子どもたちの目線に立って、しっかりと議論をしていただいた中で定員目標を掲げていただき、合意に至ったということです。

これが実現すると、全日制進学率が90%を超えるとのことで、本当に子どもたちにとっても明るいニュースだと思うところです。

これからも、子どもたち一人ひとりの希望と適性に応じた進路を確保するという、この定員計画の目標達成に向けて、引き続き御尽力いただきますようお願い申し上げまして、私からの御礼の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

座長

ありがとうございました。それでは、以上をもちまして本日の会議を閉会とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。